

しまねっ湖



ヤマトシジミ *Corbicula japonica*

CONTENTS

- 特集・夏の特別展……………2～3
- ゴビウスのなかまたち……………4
- 水辺紀行／シャッターチャンス……………5
- 環境修復の取り組み……………6
- こらまたなんたら！／表紙の生きもの……………7
- イベント報告／インフォメーション……………8

★に願いを!

開催期間

2022

7/13(水)~9/5(月)

★スカーな生きものたち

ゴビウスがある出雲地方では、今でも旧暦で「七夕」行事が行われることがあります。
思い思いの願いごとを短冊に書きこみ、これを笹の枝にくくりつけ、飾ります。

2022年の旧暦の七夕は8月4日。これにあわせて夏の特別展では、七夕や夜空の星にちなんだ生きものを紹介します。

今年の夏は、一味違った水の中の星たちに注目してみませんか。

星形の生きものたち

水中の星型(五角形)の生きものといえば、ヒトデのなかまです。英名では、「スターフィッシュ」と呼ばれ、体の中央から、5本の腕が放射状に伸びています。腕には、管足と呼ばれる器官がたくさんあり、これを使って歩きます。赤色や青色をしたものや棘をもつものなど、さまざまな種類がいて、沿岸の浅い場所から深い海まで広く生息しています。



アオヒトデ

サンゴ礁に生息し、大きさは20センチを超えるものがあります。5本ある長い腕は、丸みのある形をしています。



コブヒトデ

暖かい海の砂底に生息し、大きさは20センチ近くなります。腕は太く、体にはたくさんのコブがあります。

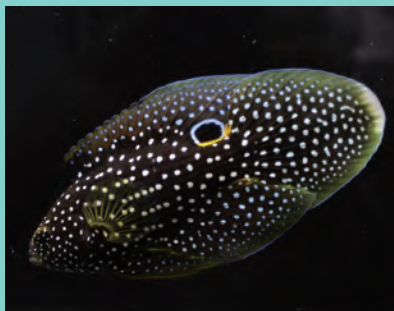
七夕をイメージさせる魚たち

名前に「天の川」、「七夕」、「笹」、「羽衣」など、七夕を連想させる名前の魚たちもいます。「なるほど確かにそっくり!」、「この部分から名付けられたのかな?」など、実際に生きものの姿と名前の関係を想像しながら、ご覧になってみてはいかがでしょうか。



アマノガワテンジクダイ

東南アジアの暖かい海に生息し、大きさは6センチ程度になります。体には3本の黒い横しまと小さな白い斑点模様があります。プテラポゴン・カウデルニーと学名で呼ばれることが多いです。



シモフリカナバクウオ

サンゴ礁に生息し、大きさは15センチ程度になります。背びれやしりびれ、尾びれは大きく、黒い体には小さな白い斑点模様がたくさんあります。



ホシササノハベラ

ベラのなかまで、青森県以南の各地の岩礁に生息し、大きさは15センチ程度になります。笹の葉のような姿をしています。背には、白い斑点模様があります。

星と名の付く生きものたち

例えば、「シロボシテンジク」や「クロホシマンジュウダイ」のように、名前にホシ(星)とつく魚がいます。体にある斑点状の小さな模様や目立つ丸形の模様などから、名付けられたものと思われます。どんな生きものがやってくるか、お楽しみに!



シロボシテンジク (テンジクザメ)

沿岸の岩礁に生息するサメのなかま。海底近くにくらし、魚やエビなどを食べます。体には、白い斑点模様があります。近年は、「テンジクザメ」と呼ばれています。

(田久和剛史)



ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま メナダとボラ

ゴビウスの中ほどにある中海をイメージしたジオラマ水槽にいる、体の大きな魚の名前をご存じでしょうか。「ボラ」がそのひとつで、もうひとつ「メナダ」という魚もいます。ボラに近い種類で姿も似ているため、じっくり比べないとなかなか見分けられません。全長1メートル近くになり、おもに内湾や潟湖（海の一部が土砂などで外海と切り離された場所）でくらしていて、中海でも時々見られます。

見分けるポイントはいくつかあります。ボラと比べると、頭部が少し上下から押しつぶされたような形で、体形も少し細身です。目もボラより小さく、縁が黄色味がかかる特徴があります。尾びれの形も異なり、ボラに比べてヒレの中央の切れ込みが浅く、台形に近い形になります。

くらす場所も少し異なります。海だけでなく汽水湖や川にもやってくるボラに比べて、メナダは海や中海でおもにくらし、塩分濃度の低い汽水湖や川に入ってくることはほとんどありません。

水槽の前を飼育スタッフが通りかかると、エサをねだって口をパクパクさせながらガラス面に近づいてこちらの様子をうかがうボラに比べて、メナダは飼育スタッフを気にしながらもボラのような動きはしません。種類の違いを見分けて、ついに行動の違いを観察するのもおもしろいかもしれません。

（佐々木興）



メナダ



ボラ

淡水のなかま ムギツク

エサやり直後に淡水のなかまたちのコーナーを歩いていると、「コツコツ」とガラスを叩くような音が聞こえることがあります。どこから音が出ているのだろうと思い、水槽をひとつずつ確認していくと、その正体は35番水槽のムギツクが石をつつきながらエサを食べている音でした。この「コツコツ」という音が、麦をつくときの音に似ていることが、ムギツクの名前の由来にもなっています。

ムギツクは、体が細長く口元から尾びれの付け根まで黒い一本線があるのが特徴です。幼魚期には、その線がはっきりとしています。成長とともに体色が黒くなりぼやけます。また、背びれと尾びれに橙色が濃く表れていますが、淡くなります。スリムな見た目とは裏腹に大食漢で、エサがなくなった後でも、他にはないかと周りの石をつついたりします。エサを探すしぐさや群れでまとまって泳ぐ姿は、とても見栄えがするため、観賞魚としても人気があります。

今回は、ムギツクを紹介しましたが、みなさんは観察する際に、目で見て楽しむことが多いのではありませんか。しかし、ムギツクのように見るだけでは気づかない音を出してくらしている生きものもいます。みなさんも水槽を観察する際に、耳を澄ましてみると、驚きの発見があるかもしれません。

（逢坂香織）



ムギツク

しまねの水辺紀行 ⑥2 高津川せいさく発祥の碑

子どもの頃、川で魚釣りをして釣り上げた魚を父親が「せいさく」と呼んでいたのをふと思い出しました。バケツからはみ出た大きな体は青黒く、口にはヒゲがありました。触ろうとすると「ひれに棘（毒）があるけえ気をつけんさい」といわれ、さらにその夜の食卓に煮付けになったそれが上がったこともあり、今でもその情景が鮮明に思い出されるインパクトのある体験でした。この「せいさく」という名は、島根県西部を流れる高津川流域に生息するナマズのなかま「ギギ」の地方名です。

前置きが長くなりましたが、ゴビウスで働きはじめてから「せいさく」の由来について調べていると、『高津川せいさく発祥の碑』があることを知り、今回、実際に見に行ってみました。出雲から車で約4時間の鹿足郡津和野町までの長旅で、その石碑は、日本一の清流にも選ばれる高津川にかかる

曾庭橋の右岸にひっそりと立っていました。

高津川のせせらぎを聞きながら、石碑に刻まれた文を読めると、もともと高津川には生息していなかったギギを、明治34年に日原町（現津和野町）曾庭の松浦清作が山口県から二尾ほど持ち帰り放流し、次第に繁殖したものを人呼んで「清作ごり」といい「せいさく」といわれるようになったとありました。

人物の名前に由来するギギの面白い地方名が、高津川流域にくらす人々に親しまれる名としてずっと受け継がれており、子どもの頃の自分もそのひとりだったと考えさせられる一日となりました。橋の上から高津川をのぞきこみ、あの岩陰に「せいさく」がいるかもしれないと思いながら、その地をあとにしました。

（桑原友春）



ギギ



高津川せいさく発祥の碑

シャッターチャンス!

ゴビウスの出口手前の大型水槽では、大きなコイたちがダイナミックに泳いでいます。

ある時、2匹のコイが見つめ合い、そして・・・。

エサの匂いを感じての行動かもしれませんが、その姿にとっても心が温かくなりました。

（坂本 脩）



「汽水ビオトープ池でのオニバス栽培」

オニバスは、水面に1メートルを超える巨大な葉を広げるスイレン科の浮葉植物です。全国的に絶滅のおそれがあり、島根県の「指定希少野生動植物」に指定され、保護されています。

ゴビウスでは2020年より、新しい展示の試みとして、敷地内にある汽水ビオトープ池を活用したオニバスの栽培に取り組みはじめました。公益財団法人ホシザキグリーン財団が管理する「ふるさと尺の内公園」で系統保存されているオニバスの発芽種子より育てた、計8株を用いて栽培をはじめました。しかし、2020年に順調に成長したのは、その内の1株で、残りの7株は、茎からちぎれたり、根から抜けて育ちませんでした。これは強風や宍道湖の水に含まれる塩分の影響が原因ではないかと考えられました。



オニバスの発芽種子

この結果を踏まえて、2021年は栽培するオニバスの周りに、風よけのための囲いを設置し、ある程度成長した株を用いて展示をスタートしました。その効果もあってか、栽培する6株すべてが順調に成長しました。一番大きく育ったものは、最大直径が47センチの浮葉を水面に広げ、お客様の目をひきました。また、種子も6株から合計1,136粒回収できました。



鉢の周りに設置した囲い



回収したオニバスの種子

ゴビウスの汽水ビオトープ池は、宍道湖から塩分を含む水を導水しているため、ため池など淡水域に生育するオニバスの栽培が上手くいくかどうか、当初は分かりませんでした。しかし、この2年間の取り組みで、複数株の栽培と展示ができることが分かりました。



回収したオニバスの種子

今後は、回収した種子を使用しながら、毎年、汽水ビオトープ池でさらに大きな浮葉を広げたオニバスをみなさんに見ただけのように展示に取り組んでいきたいと思っています。

(森永和希)

※本事業は公益財団法人ホシザキグリーン財団の「希少生物繁殖事業」の一つとして実施しています。

こらまたなんだら! 其の二十八 マンサク

島根県で「マンサク」と呼ばれているシイラは、世界中の温暖な海に生息する大型魚です。当地では、初夏から秋にかけて店頭で並ぶことが多い魚ですが、最近は温暖化の影響なのか、それ以外の季節でも見かけるようになりました。



スペイン語では「黄金（ドラード）」

シイラの習性は「食欲」のひと言に尽きます。普段は、海面近くをユラユラと泳いでいるのですが、エサとなる小魚の群れを見つけると、瞬時に、そして執拗に襲いかかります。その食欲がよくわかるのは、定置網で捕獲された時です。袋状の網をゆっくりと引き上げていくと、ほとんどの魚はパニックになって逃げ惑うのですが、シイラは網の中でも、最後まで他の魚を襲い続けます。また、この食欲故に、シイラを釣るのは、それほど難しくありません。群れに遭遇すると、どんなルアーにも簡単に食いついてきますので、強烈な引きや激しいジャンプといった、釣りの醍醐味を存分に味わうことができます。

一方、身はクセがなく、ハワイなどでは高級魚

として扱われています。特に、フライやムニエルが好まれますが、漁獲後、すぐに氷で締めた刺身も絶品です。さらに、この季節のシイラは卵を持っていて、こちらも焼いたり甘辛く煮付けたりするととても美味です。ただし、自分で釣ったものは、素早く適切に処理をしないと、肉にヒスタミンという食中毒の原因となる物質が生成されてしまうことも・・・以前、真夏の炎天下で釣り上げたシイラの処理を誤り、強烈な腹痛に苦しんだ経験は、今思い出しても辛いものです。何はともあれ、釣り上げたらすぐに血抜きをして氷水に投入すれば、最高に美味しい刺身がいただけるはずです。



卵は夏だけの味わい

島根の夏の魚として、県のホームページでも、さまざまなレシピが紹介されていますので、ぜひお試しください。

(中畑勝見)

表紙の生きもの ヤマトシジミ *Corbicula japonica*

淡水と海水が混ざる汽水域の砂泥底に潜ってくらす二枚貝です。殻の色は、黒や茶色などさまざまです。宍道湖は全国1位の産地として知られ、宍道湖七珍のひとつにも挙げられています。

豊富にある植物プランクトンなどを食べて成長しますが、漁獲可能なサイズになるには2年以上かかると言われています。

また、優れた水質浄化能力をもつことが知られています。入水管と呼ばれる管から水中の有機物を吸い込み、えらでこしたきれいな水を出水管という管から吐き出し、再び水中に戻しています。とても

小さな体ですが、実は宍道湖の生態系の基盤を支えている、縁の下の力持ちのような生きものなのです。

(松本千優)



イベント報告

～「ゴビウススペシャルクイズラリー」編～

ゴールデンウィーク期間中の土曜、日曜、祝日にクイズラリーを開催しました。制限時間30分の中で、問題を探し、集めたキーワードを組み合わせて、答えを完成させるという難易度の高い内容でした。お子様から大人の方まで、制限時間と戦いながらも、協力して楽しんで、イベントに参加されていました。シルバーウィークにもイベントを企画しますので、どうぞ楽しみにしてください。

(大山淳子)



ゴビウス生きもの観察会に参加しませんか？

ゴビウスでは毎月1回、生きものをテーマに観察会を開催しているよ！



8/21 日曜日 10:00～11:30

受付開始 **8/7**

水生昆虫の王者タガメのひみつ！

日本最大の水生昆虫タガメの姿は迫力満点！なかなか見ることができない幼虫を観察するよ！



9/11 日曜日 10:00～11:30

受付開始 **8/28**

ダンゴムシを観察してみよう！

身近な生きものダンゴムシを観察してみよう！あしの数はなん本？なにを食べるのかな？ダンゴムシのひみつを探ってみよう！



10/16 日曜日 10:00～11:30

受付開始 **10/2**

貝殻アートでドアプレートを作ってみよう！

海岸にはさまざまな物が流れつくよ。漂着物のひとつである貝殻を使って、自分だけの作品をつくろう！



11/20 日曜日 10:00～11:30

受付開始 **11/6**

オオサンショウウオの身体測定！

毎年おこなっているオオサンショウウオの身体測定。今年の結果は？実際にふれながら測定してみよう！



定員 申込先着**30**名程度

対象 どなたでも
(小学生以下は保護者の参加も必要)

「ゴビウス生きもの観察会」
はWEBにてお申し込み
下さい。

ホームページにある観察会予約ページから
お申し込みください。
お申し込みは開催2週間前の9時30分からです。



新型コロナウイルス感染拡大予防のため、県の対応方針に伴いイベント等が中止になることがあります。ご来館の際は、ホームページにて最新情報をご確認いただきますようお願いいたします。

ご来館案内

- 入館料／大人…500円(400円)
小中高生…200円(160円)
※()内は団体20名様以上の料金
- 年間パスポート／大人…1,400円
小中高生…500円
ご家族で同時にご購入いただくと2割引になります。
大人1,120円、小中高生400円。
※割引の適用は同居のご家族に限ります。他の割引との併用不可。
- 開館時間／9:30～17:00(最終入館は16:30)
- 休館日／火曜日、年末(12月28日～12月31日)
※火曜日が祝日の場合は、その翌平日が休館日となります。

みなさんのご来館
お待ちしております。



- 一畑電車湖遊館新駅より徒歩10分
- 山陰道穴道インターより車で15分
- 駐車場／100台(無料・トイレ完備)

ゴビウスニュースレターしまねっ湖 No.74

発行日／2022年7月10日

発行／島根県立穴道湖自然館ゴビウス(管理運営：ホシザキグリーン財団)

〒691-0076 島根県出雲市園町 1659-5

TEL 0853-63-7100 FAX 0853-63-7101

URL www.gobius.jp/ E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示

氏名または名称：公益財団法人ホシザキグリーン財団
事業所の名称：島根県立穴道湖自然館
動物取扱業の種別：展示
登録番号：第073102040号
登録年月日：2007年5月17日
登録有効期限：2027年5月16日
取扱責任者：桑原友春



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用

本誌は地球環境に優しい
植物油インキを使用して
おります。



植物油インキは、大気汚染の原因となる
VOC(揮発性有機溶剤)の削減および
再生紙処理の優位性が高い成分です。